

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01907

研究課題名(和文) 啓蒙期の知的公共圏におけるフィクション使用の形態・機能研究

研究課題名(英文) Typological and Functional Studies on Uses of Fiction in the Intellectual Public Sphere of the Enlightenment Period

研究代表者

齋藤 渉 (Saito, Sho)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：20314411

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 22,100,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究の目的は、18世紀におけるフィクション使用の形態と機能を研究することであった。その成果は、a) 理論的研究と、b) 歴史的研究に分けることができる。

a) 理論的研究については、特に、1) フィクション理論における意図概念の検討(特に仮説的意図主義をめぐる研究)、2) 対話ジャンルの概念に関する考察、3) フィクション概念と物語概念の接続の3点を挙げたい。b) 歴史的研究の第一の成果は、18世紀における対話ジャンルの影響史的研究である。第二の成果として、『ベルリン月報』掲載のグロシinger書簡に関する調査が挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の啓蒙研究にしばしば見られた「啓蒙＝理性の時代」という一面的な理解を克服し、フィクションの使用を手がかりに啓蒙という現象の多属性を示した点に本研究の学術的意義がある。また、この国際的にも新しい研究動向において、内外の研究者と緻密なネットワークを築いた意義も大きい。

研究成果の概要(英文)：Our joint project aimed at inquiring the forms and functions of the uses of fiction in the 18th century. Its major results can be divided into a) theoretical and b) historical research.

In theoretical research, 1) we investigated the notion of intention in the theory of fiction (especially the so-called hypothetical intentionalism), 2) made a close examination of the genre of dialogue and 3) researched the relation between the concepts of fiction and narrative.

As to historical research, we focused on Gottsched's translations of Fontenelle's dialogues and his theoretical reflections on the genre. Further, we made a research on the fictitious "letters" published in the "Berlinische Monatsschrift" and argued for their fictiveness.

研究分野：哲学・思想史

キーワード：啓蒙 フィクション 18世紀 ヨーロッパ

1. 研究開始当初の背景

Heinz Thoma の編集した *Handbuch Europäische Aufklärung* [ヨーロッパ啓蒙ハンドブック] (2015) は、見出し語数 50、総ページ数 600 におよび、今日の啓蒙研究の世界的水準を踏まえた労作だが、「フィクション」の語は見出し語になく、索引にすら挙げられていない。1990～2000 年代にかけて各国で出版された類書においても同様である。この点からも、今日の国際的研究において、フィクションの問題がいまだ啓蒙研究の課題としてほとんど意識されていないことが推測されよう。

これまで研究代表者は、ドイツ語圏における啓蒙主義思想を対象に、その社会的背景や影響をさまざまな観点から考察してきた。その際、最も重要な参照項となったのは、『ベルリン月報』にカントが寄せた論文「啓蒙とは何か」(1784)である。Hinske 編の選集(1973)に代表される、同誌上の議論を踏まえた研究に触発され、特にカント論文と同時期に連載された匿名書簡「ベルリンについて」(1783 - 1785)に着目した。

この書簡については Scholtz による一連の研究(1965、1987)があり、実は件の匿名の著者が『月報』の編集者ゲーディケにほかならなかつたとする説を唱えている。申請者はすでに 2006 年発表の論文「フィクションの公的使用」において Scholtz 説を支持する立場から検討を加え、啓蒙期の活字メディアが、通常想定される以上にフィクショナルな言説を含んでいるという予想を示した。その論拠の一つとなったのが、Martens (1968/1971)である。18 世紀中葉に流行したドイツの「道徳週刊誌」をあつかう彼の研究はこのジャンルの最大の特徴がまさしくフィクション性であったことを論証している。

こうした問題意識を踏まえてスタートしたのが、平成 24～27 年度に実施した基盤研究(A)「啓蒙期におけるフィクション使用の多様な形態と機能に関する総合的研究」(以下、第一期と称する)であった。本計画は、この共同研究を継承・発展させるものである。これまでの成果をさらに発展させるため、啓蒙期におけるフィクション使用の諸形態について、独自の視点から調査・分析を継続しなければならない。この課題を遂行するには、複数地域や専門分野を横断する相当規模の共同研究が不可欠である。

2. 研究の目的

ヨーロッパの啓蒙は多様な側面をそなえていた。これまで十分な検討がなされてこなかった側面の一つにフィクションの使用がある。フィクションは、狭義の文学テクストにとどまらず、政治・宗教・演劇・教育・科学・哲学など、さまざまな領域で用いられた。啓蒙=理性の時代という依然根強いイメージのため、周縁的な現象と見なされがちだが、近代的公共性の形成・発展のなかで無視できない役割を果たしていたことが明らかになりつつある。本研究は、18 世紀啓蒙期におけるフィクションのさまざまな形態を包括的に調査し、とりわけ知識人が先導した公共性形成との関連で、その機能を分析することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究が主にあつかうのは 1700 年代であるが、その前後それぞれ 50 年を視野に入れて検討する。18 世紀に見られるフィクションの前提条件として、17 世紀後半の社会的変化(科学革命の進展や定期刊行物の普及など)を考慮するとともに、その後のフィクション使用がどのような発展・変化を示すのかを 19 世紀前半まで辿るためである。具体的な研究は、a) 理論的側面と、b) 歴史的側面を区別して進める。

a) 理論的研究

研究を進める上での指針となるフィクション概念の考察を進めていかなければならない。第一期の成果を継承し、サールの言語行為論的アプローチを参照しつつも、ウォルトン、シェフェール、ジュネットらの理論展開をはじめ、近年の国内外における研究を検討しながら、歴史的な事象研究のベースとなる概念枠組みを整備する。

b) 歴史的研究

18 世紀を中心に西欧のさまざまな社会領域で見られたフィクションの使用について、できるかぎり広範な事例研究を進めていく。共同研究参加メンバーの専門に応じて、英語・仏語・独語・伊語・ラテン語等を主な対象とし、第一期同様、宗教・教育・芸術・政治・科学・哲学などの領域における多様なフィクション使用を考察した。

その際、ハーバーマス以降の市民的公共性論を意識しつつ、以下の 4 つの問題系を座標軸として事例を分析する。第 1 に、なぜかとも多くの領域でフィクションが用いられ、フィクションの使用がいかなる認識の変化をもたらしたのかという動機/認識の問題系。第 2 に、そのような広範なフィクション使用を担った制度/媒体の問題系が加わる。第 3 に、フィクションがあつかう社会的コンフリクトに対してコミュニケーションを制限しようとする動きと、そのことがむしろコミュニケーションを活性化するという検閲/流通の問題系が考えられる。第 4 に、フィクションの使用を媒介として、読者/公衆がいかにして形成され、その社会身分的構成がどう変動し

ていったのかという問題系が生じる。

18 世紀の（市民階級出身者を中心とするが、貴族たちとも相互に影響しあう）知識人は、従来の宮廷文化・人文主義的遺産を継承しつつ、そこに新たな意味や機能を付与していった。こうして形成されるコミュニケーション過程を本研究では知的公共圏と名づけ、上記の 4 つの問題系を相互に関連させつつ考察をおこなう。

4. 研究成果

理論的研究における成果として、以下の 3 点が挙げられる。

1) フィクション理論における意図概念の検討：サールのフィクション概念には、フィクショナルなテキストの範囲を明確に規定できるという利点がある一方、著者の意図という基準があまりに強調されるという欠点を含む。こうしたフィクションと意図との関係について、いわゆる仮説的意図主義をめぐる論争を詳細に考察した。意図概念の位置づけについては、主として文学研究・解釈理論のなかで議論がなされてきたが、そうした議論を参照しつつ、思想史研究において求められる意図の概念を検討した。

2) 対話ジャンルの概念に関する考察：第一期の研究においては、書簡、戯曲、対話、小説などさまざまな形態のフィクション使用を考察した。第二期では、知的公共圏という視点との関連で、古代からルネサンスを経て啓蒙期にいたるコミュニケーション過程を通じた、複数テキスト間の受容・影響関係を研究した。その際に最も有望と思われたのが対話ジャンルである。最も研究が盛んなのはフランス文学・思想の分野である。とりわけシェフェールによるジャンル理論（1989）などの知見を踏まえつつ、プラトン、ルキアノス、キケロなど古典期対話テキストの継承、ジャンル規範の共有と逸脱といった問題について考察を深めた。

3) フィクション概念と物語概念の接続：『ベルリン月報』掲載のグロシinger 書簡に関連する調査のなかで、同時代に流布していた陰謀論的言説の重要性が認められた。山師、降霊術、宮廷の陰謀といったさまざまなヴァリエーションのナラティブ（物語）の広がり、18 世紀後半の社会における啓蒙への関心と並行する現象だといえる。ある意味で、啓蒙はこうした非合理的ナラティブに対抗するナラティブとして登場し、そのための戦術としてフィクションが使用されたともとらえる。研究期間上、この点について検討を深めることはかなわなかったが、これまでの研究をより発展させていく上で重要な視点だと考えらえる。

歴史的研究の成果の一部は、理論的研究の 2) で触れた対話ジャンルの考察と関連する。特に、フォントネルの刷新した対話ジャンルが、ゴットシェートによる翻訳や理論的考察を経てドイツ語圏に紹介される経緯を詳細に検討した。ここには、古典期からフランスを経てドイツへといった受容があり、この受容がどのような関心と論理に導かれていたかをたどることができる。また、古典的模倣理論の代表的論客であったゴットシェートの対話論は、こうした理論的枠組みの内在的限界をも明らかにするものであった（国際 18 世紀学会における報告）。

もう一つの主要な成果として、グロシinger 書簡に関する研究が挙げられる。特に、ベルリン国立図書館の公開するメーゼン文書を調査することで、従来の研究では状況証拠からのみフィクションと認定されてきたこれらの「書簡」が実際にはメーゼンの創作にほかならないことを明らかにすることができた（日本 18 世紀学会における報告）。

共同研究グループとしては、2019 年 7 月の国際 18 世紀学会第 15 回大会（エディンバラ）で、以下 2 つの共同セッションを実施した。

Enlightenment Style: Strategic Use of Fiction for Persuasion and Entertainment

Imagined Identities: Fictional Production of Power, Value, Nature, and Nationality

いずれも内外の研究者が多数参加し、有意義な議論や情報交換がおこなわれたばかりでなく、関連する分野の専門家たちとのネットワークを広げることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 後藤正英	4. 巻 37
2. 論文標題 下田和宣著『宗教史の哲学－後期ヘーゲルの迂回路』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宗教哲学研究	6. 最初と最後の頁 131-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤正英	4. 巻 10
2. 論文標題 若きコーヘンの哲学的出発点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 111-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤正英	4. 巻 27
2. 論文標題 ヤコービの衝動概念と個体の自由 - 『フィヒテ宛公開書簡』の付録と補遺の分析から -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フィヒテ研究	6. 最初と最後の頁 9-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤渉	4. 巻 24
2. 論文標題 啓蒙と虚偽 ヘーゲル『精神現象学』第VI章Bを中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 超域文化科学紀要	6. 最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大崎さやの	4. 巻 1
2. 論文標題 《ボッペアの戴冠》の解釈をめぐって -ブゼネッコによる地上の生の賛歌-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田オペラ/音楽劇研究	6. 最初と最後の頁 5-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大崎 さやの	4. 巻 67
2. 論文標題 ルイーダ・リッコポーニの『演技術について』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 演劇学論集 日本演劇学会紀要	6. 最初と最後の頁 109 ~ 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.18935/jjstr.67.0_109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大崎さやの	4. 巻 44
2. 論文標題 ゴルドーニとオペラ・セーリアーメタステージオ作品との関係を中心にー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京藝術大学音楽学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sayaka Oki	4. 巻 51
2. 論文標題 Le tatonnement de l'expertise scientifique moderne : les eloges de Condorcet comme lieux de reflexion sur le role social des savants	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Dix-huitieme siecle	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 隠岐さや香	4. 巻 5
2. 論文標題 文理の境界とジェンダー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 200-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akihiro Kubo	4. 巻 LXVIII, N.4
2. 論文標題 Par-dela realisme et surrealisme - Le Chiendent de Raymond Queneau	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Jinbun Ronkyu (Humanities Review)	6. 最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤正英	4. 巻 26
2. 論文標題 愛・性・家族：この身近で遠いもの - 藤田尚志・宮野真生子編『愛・性・家族の哲学』全三巻	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西日本哲学年報	6. 最初と最後の頁 87-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤正英	4. 巻 10
2. 論文標題 若きコーヘンの哲学的出発点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅利恵	4. 巻 36
2. 論文標題 樽の中の世界市民-C.M. ヴィーラントの『ディオゲネスの遺稿』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文論叢	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤正英	4. 巻 25
2. 論文標題 シェリングとヤコービーシェリング哲学の転換点としての神的物論争	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 西日本哲学年報	6. 最初と最後の頁 57-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保昭博	4. 巻 初夏号
2. 論文標題 ポスト・トゥルースあるいは現代フィクションの条件	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田文学	6. 最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akihiro Kubo, Tomoe Nakamura, Manabu Kawada	4. 巻 XVI, No.1
2. 論文標題 Description and point of view in the modern Japanese novel: Iwano Homei 's theoretical discourse	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Annals of "Dimitrie Cantemir" Christian University, Linguistics, Literature and Methodology of Teaching	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田将明	4. 巻 43
2. 論文標題 非国教徒ダニエル・デフォーの市民的不服従 The True-Born EnglishmanからAnglo-Scottish Unionまで	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ヘンリー・ソロー研究論集	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 利恵	4. 巻 41
2. 論文標題 18世紀後期におけるコスモポリタニズムの機能	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 希土	6. 最初と最後の頁 58-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 利恵	4. 巻 14 (2)
2. 論文標題 レッシングにおける愛と正義	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ドイツ文学	6. 最初と最後の頁 24-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大崎 さやの	4. 巻 8
2. 論文標題 オペラ『アルチェステ』をめぐる : ヒロインの人物像を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 イタリア語イタリア文学	6. 最初と最後の頁 49-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大崎 さやの	4. 巻 394
2. 論文標題 トニ・セルヴィッロ演出のゴルドーニ『避暑三部作』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地中海学会月報	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久保 昭博	4. 巻 35
2. 論文標題 古典主義の理論家レーモン・クノー 『ヴォロンテ』誌の論考をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Stella	6. 最初と最後の頁 231-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武田 将明	4. 巻 12月号
2. 論文標題 小説の機能 (5) 『トム・ジョーンズ』と僭名の時空	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 118-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上村 敏郎	4. 巻 72
2. 論文標題 【史料翻訳】作者不明『皇帝ヨーゼフはやはり愛されている。最近世に出た著作『なぜ皇帝ヨーゼフは民に愛されないのか?』に対するちょっとした返答』ウィーン、1787年	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 獨協大学ドイツ学研究	6. 最初と最後の頁 69-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 隠岐 さや香	4. 巻 2月号
2. 論文標題 「社会数学」の生成・消滅と部分的再生	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計37件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 Masaaki Takeda
2. 発表標題 'With Such Alterations As Might Mostly Satisfy the Curiosity of the Public': George Psalmanazar and the Disguised Identity of the Novel
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (Edinburgh, UK) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rie Suga
2. 発表標題 Cosmopolitan Identity and the 'Natural State': Wieland's 'Manuscript of Diogenes'
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (Edinburgh, UK) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toshiro Uemura
2. 発表標題 Identity as a King/Queen of Hungary: Political Fictionality in the Coronation of Maria Theresia in Hungary
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (Edinburgh, UK) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sayano Osaki
2. 発表標題 Rethinking Goldoni 's Tragicomedy ' La sposa persiana ' through Comparison with Past Venetian Theater Works
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (Edinburgh, UK) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahide Goto
2. 発表標題 Jacobi 's Philosophical Novels and His Unique Writing Style
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (Edinburgh, UK) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akihiro Kubo
2. 発表標題 Adaptation and Criticism of Fiction in the Early Novels of Marivaux
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (Edinburgh, UK) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sho Saito
2. 発表標題 'How to Write Good Dialogues ' : Johann Christoph Gottsched as Translator of Fontenelle
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (Edinburgh, UK) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤 渉
2. 発表標題 「第三の男」？ 『ベルリン月報』グロシinger書簡の啓蒙觀をめぐって
3. 学会等名 科研費共同研究「グローバル市場とナショナリズムの思想史的起源：18世紀歴史叙述の再検討」（研究代表者：小谷 英生）定例研究会 2019年3月19日）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤 渉
2. 発表標題 啓蒙とフィクション 『ベルリン月報』グロシinger書簡を中心に
3. 学会等名 日本18世紀学会第41会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤正英
2. 発表標題 若きコーヘンの哲学的出発点
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤正英
2. 発表標題 ヤコービにおける衝動概念と自由
3. 学会等名 日本フィヒテ協会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田将明、大澤真幸、西垣通
2. 発表標題 「激動する世界」、その可能性を探る ギリシア悲劇を導入部として政治・経済・社会から文化まで
3. 学会等名 利賀演劇祭（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田将明（司会）、壽里竜、若澤佑典
2. 発表標題 デイヴィッド・ヒュームと啓蒙の諸問題 哲学・歴史・文学
3. 学会等名 本科研主催研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田将明、古田徹也、影浦亮平
2. 発表標題 批評と文学の他者 固有名と翻訳をめぐって
3. 学会等名 神戸大学文学部若手研究者支援プログラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田将明、中島渉、原田範行
2. 発表標題 スウィフトのダブリン
3. 学会等名 ダブリンWG
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斉藤 渉
2. 発表標題 啓蒙期の対話ジャンルについて
3. 学会等名 「啓蒙とフィクション」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 斉藤 渉
2. 発表標題 ドイツ語圏におけるフォントネル受容
3. 学会等名 「啓蒙とフィクション」研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斉藤 渉
2. 発表標題 J. ハーバース 『哲学論文集』第5巻(2008)「メタ哲学的考察」諸論考を読む
3. 学会等名 批判的社会理論研究会 第32回研究例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大崎さやの
2. 発表標題 ゴルドーニのオペラ『スタティーラ』をめぐって
3. 学会等名 「啓蒙とフィクション」研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大崎さやの
2. 発表標題 《ボッペーアの戴冠》の台本作家ブゼネッロについてー歴史上の人物を扱った最初のオペラ作家ー
3. 学会等名 モンテヴェルディ生誕450年記念シンポジウム モンテヴェルディのオペラから広がるバロック・オペラの世界
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大崎さやの
2. 発表標題 イタリアの演劇人とフランス～演劇とオペラにおける文化交流
3. 学会等名 知求アカデミー オープンカレッジ（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 Le retour au classicisme est-il un paradoxe de la modernité ?
3. 学会等名 名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター主催シンポジウム「前衛芸術と古典主義 1880年～1945年」（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 文学の理念とその外部 日本近代における文学の起源・発生をめぐる言説
3. 学会等名 ハイデルベルク大学ワークショップ「日本の文学理論・日本文学を理論する」（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅利恵
2. 発表標題 "親密さの政治学 ヴィーラント『アリスティッポス』における愛とコスモポリタニズム"
3. 学会等名 日本独文学会春季研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅利恵
2. 発表標題 事実を意識するフィクション
3. 学会等名 三重大学日本語学文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田将明
2. 発表標題 "With such alterations as might satisfy the curiosity of the public" George Psalmanazar, The Description of Formosaと十八世紀初頭の表象の臨界
3. 学会等名 日本英文学会第89回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田将明
2. 発表標題 フィクションの彼方に 18世紀イギリス文学研究の最近の動向から
3. 学会等名 日本ジョンソン協会第50回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sayaka Oki
2. 発表標題 La definition des physico-mathematiques chez D'Alambert et Diderot : la pluralite des sciences 'newtoniennes' au milieu du XVIIIe siecle
3. 学会等名 D'Alambert dans les debats de son temps, Colloque international sous le haut patronage de l'Academie francaise et de l'Academie des sciences (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斉藤 涉
2. 発表標題 作者の帰還？ フィクション理論における意図主義をめぐって
3. 学会等名 日本シェリング協会 第25回総会・大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大崎 さやの
2. 発表標題 ゴルドーニとオペラ・セーリア - メタステージオ作品との関係を中心に
3. 学会等名 日本18世紀学会 第38回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 久保 昭博
2. 発表標題 岩野泡鳴の理論的言説
3. 学会等名 日本近代文学会 2016年度春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 久保 昭博
2. 発表標題 文学の理念とその外部 日本近代における文学の起源・発生をめぐる言説
3. 学会等名 ハイデルベルク大学ワークショップ「日本の文学理論・日本文学を理論する」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 後藤 正英
2. 発表標題 自己愛と悪 - カント、シェリング、西谷
3. 学会等名 日本シェリング協会 第25回総会・大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 後藤 正英
2. 発表標題 シェリングとヤコービー神的事物論争のもつ思想的射程
3. 学会等名 西日本哲学会 第67回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 武田 将明
2. 発表標題 非国教徒 (Dissenter) ダニエル・デフォーの市民的不服従 The True-Born EnglishmanからAnglo-Scottish Unionまで
3. 学会等名 日本ソロー学会 2016年度全国シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上村 敏郎
2. 発表標題 啓蒙期ハブスブルク君主国における宗派ネットワーク 宗教寛容令直後のプロテスタントの活動
3. 学会等名 歴史人類学会 第37回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 隠岐 さや香
2. 発表標題 「社会数学」の生成・消滅と部分的再生
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「融合を問う：学問の消滅と生成の系譜学から」
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 ジャン＝マリー・シェフェール（久保 昭博訳）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 352（訳者解説：319-328）
3. 書名 なぜフィクションか？ ごっこ遊びからバーチャルリアリティまで	

1. 著者名 坂本武（編）、武田将明ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開文社出版	5. 総ページ数 381（担当：157-176）
3. 書名 ローレンス・スターンの世界	

1. 著者名 川本直、榎原辰郎（編）、武田将明ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 富山房インターナショナル	5. 総ページ数 312 (担当 : 196-200, 234-262, 265-266, 275-277)
3. 書名 吉田健一ふたたび	

1. 著者名 武田将明、秦邦生、松本朗ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 未定
3. 書名 イギリス文学と映画	

1. 著者名 菅 利恵	4. 発行年 2018年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 300
3. 書名 「愛の時代」のドイツ文学	

1. 著者名 武田将明	4. 発行年 2017年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 334 (担当 : 186-195)
3. 書名 日本英文学会（関東支部）編、教室の英文学	

1. 著者名 武田将明	4. 発行年 2017年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 270 (担当: 10-24)
3. 書名 東京大学教養学部編、分断された時代を生きる	

1. 著者名 ダニエル・デフォー、武田 将明 (翻訳・解説)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 364
3. 書名 ベストの記憶	

1. 著者名 斉藤涉 (解題部分執筆)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 水星社	5. 総ページ数 466 (解題担当: 139-142)
3. 書名 大浦康介編、日本の文学理論 アンソロジー	

1. 著者名 斉藤涉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 224 (担当: 125-136)
3. 書名 高橋輝暁編、人間形成としての教養 ハンガリー、フィンランド、日本におけるドイツ的理念の受容と将来展望	

1. 著者名 Sho Saito	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Verlag Karl Alber	5. 総ページ数 192 (担当: 134-142)
3. 書名 Teruaki Takahashi, Tilman Borsche (eds.): Bildung nach Humboldt. Erfolg, Krise und Zukunft einer Idee in Ungarn, Finnland und Japan. Zum 50-jaehrigen Jubilaeum der Dokkyo Universitaet zu Soka	

1. 著者名 Sho Saito	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Wilhelm Fink	5. 総ページ数 295 (担当: 79-87)
3. 書名 Teruaki Takahashi et al. (eds.): Japanisch-deutsche Diskurse zu deutschen Wissenschafts- und Kulturphaenomenen	

1. 著者名 大崎 さやの	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 450 (担当: 252-259)
3. 書名 丸本隆他編: キーワードで読む オペラ / 音楽劇 研究ハンドブック	

1. 著者名 Masaaki Takeda	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Cambridge Scholars Publishing	5. 総ページ数 161 (担当: 49-64)
3. 書名 Barnaby Ralph et al. (eds.): London and Literature, 1603-1901	

1. 著者名 武田 将明	4. 発行年 2017年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 印刷中
3. 書名 日本英文学会（関東支部）編：教室の英文学	

1. 著者名 Sayaka Oki	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 258
3. 書名 Ryuzo Kuroki and Yusuke Ando (eds.): French Political Economy and Social Reform Visions in the Age of Enlightenment	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上村 敏郎 (Uemura Toshiro) (20624662)	獨協大学・外国語学部・准教授 (32406)	
研究分担者	大崎 さやの (Osaki Sayano) (80646513)	東京藝術大学・音楽学部・講師 (12606)	
研究分担者	隠岐 さや香 (Oki Sayaka) (60536879)	名古屋大学・経済学研究科・教授 (13901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久保 昭博 (Kubo Akihiro) (60432324)	関西学院大学・文学部・教授 (34504)	
研究分担者	後藤 正英 (Goto Masahide) (60447985)	佐賀大学・教育学部・准教授 (17201)	
研究分担者	菅 利恵 (Suga Rie) (50534492)	三重大学・人文学部・教授 (14101)	
研究分担者	武田 将明 (Takeda Masaaki) (10434177)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	